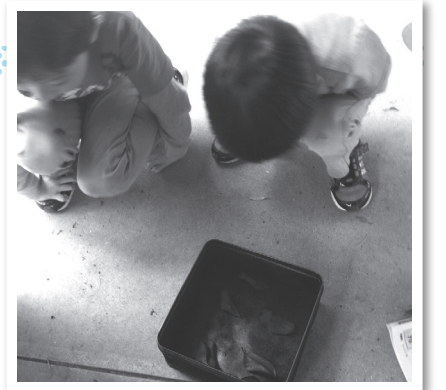


活動報告 花炭体験

5月3日から4日にかけて、花炭体験に、親子2組の参加がありました。普段から見る木炭や竹炭とは違い、全く出来上がりが予想できない花炭は、子どもたちの興味を引き、竹の笹を入れてみたり、ツツジの葉っぱを入れてみたりと、短時間で出来上がるので様々な「実験」を楽しんでいるようでした。

椿の葉やまつぼっくりを花炭にし、自分たちで作った様々な炭と一緒に大事そうに持って帰る後ろ姿はとてもほほ笑ましかったです。これからも自然界の植物の二次利用として花炭体験を行っていきたいと思います。



▲上手に出来たかな

ピザ作り体験

5月3日、親子5組の参加でピザ作り体験を行いました。生地作りを子どもに任せ練り方を教えながら、ここぞという時には、手を貸し、子ども中心でトッピングまで楽しむことができました。ダッチオーブンという、鋳型で作られた鉄鍋に生地を入れ、火加減を見て、待つこと15分、美味しそうなピザの出来上がりに笑みがこぼれ、「美味しい」という歓声とともにあっという間に完食されていました。



▲美味しそう!

フットパスモニターウォーキング

5月4日、1家族・4人の参加でフットパスモニターウォーキングを行いました。天気もよく、歩くのに適した気温でのウォーキングでした。子どもたちは「きつかったけど楽しかった。」と最後まで元気よく歩いてくれました。

今後は季節に合わせてウォーキングコースを考えていきますので次回もお楽しみに!!

ロープワーク体験

5月5日、龍神橋を渡った先のデッキでロープワーク体験を行い、老若男女23人の参加がありました。

簡単な本結びから始め普段の生活でも使える自在結び(張り綱結び)などを行いました。災害が多い昨今こそ、このような技術が大事になってくると思います。皆さまもこれを期に、是非学んでみてはいかがでしょうか。

イベント情報

無農薬梅を使った酵素ドリンク作り

- ◆日 時：6月2日(日)10時~11時30分
- ◆場 所：立神峡公園内里地屋敷
- ◆参加費：1,500円(無農薬梅1キログラム、きび砂糖、保険を含む)

◆持参品：4リットルの果実酒貯蔵びん

◆募集人数：10人

【酵素とは!!】

タンパク質の一種で、消火・吸収や燃焼、排泄など、身体の働きになくてならない物質です。食べ物を消化吸収するばかりではなく、息をしたり、筋肉を動かしたりと、生命活動にとっても重要なものです。酵素の働きがなければ、人間も動物も生きることは出来ません。酵素ドリンクダイエットが芸能界でも流行中!



▲石臼よいしょ!

お問い合わせ・お申し込み先
立神峡公園管理組合 ☎62-1543 tategamikyou@yahoo.co.jp (8:30~17:30 火曜定休日)

町民文芸

短歌

桃色に色重ねるもままならず
叶う命は咲きほこるのみ
法道寺 本田 花風

夏空の陽射しに雲に紛れつつ
二羽の白鷺高く飛びゆく
北野津 宮本 末秋

道の駅つばめの宿も引き受けて
あちらこちらにひなの啼き声
高塚 桑原ゆき代

カーネーションハウスの中で三分咲き
出番今かと並び待ちをり
吉本 高橋 澄子

デイに行く友を見送り手を振れば
心通いて春風流る
西野津 古崎スエノ

賜わりの匂タケノコやサラ玉の
私の胃袋春満たりて
南鹿野 尾崎 京子

電線に小雨にぬれて只一羽
止まりし雀何思い居る
吉本 橋村 正之

俳句

ゆったりと広がる空は五月色
節句の善の鯉も跳ぬ
西野津 古崎 栄子

野に草葉山に若葉の萌え黄色
みどり揺らして風は流れる
高塚 竹中 力

生身なる心に深く息つげば
錦おりなす夕映えの宙
桜ヶ丘 宮崎敬四郎

朝風の御立岬に汐光り
柴島緑遠くに霞
新村 濱田 照昭

大寺の屋根を覆うがに樟若葉
北野津 宮本 末秋

文机子らプレゼント春の風邪
高塚 桑原ゆき代

山間の川に数多の鯉のぼり
吉本 高橋 澄子

我が庭のみどりしたたる若楓
西野津 古崎スエノ

孫子らの朝茶揃えて無事祈り
南鹿野 尾崎 京子

久々と友と弾む仏婦の旅
西野津 古崎 栄子

外泊の許されうれし夏明かり
町 香山菊童子

見渡せる八代平野夏に入る
町 香山セツ子

世の流れ少なくなったこのぼり
高塚 竹中 力

行く道は無碍の一道青葉風
桜ヶ丘 宮崎敬四郎

母の日や傘寿の祝い花届く
桜ヶ丘 吉田 照子

待ちわびし今日退院の五月晴
町 田中 澄子

独りごと蔭にこぼして更衣
桜ヶ丘 宮崎トシ子

Sして球磨川眺めアユの里
新村 濱田 照昭

太い腕
吉本 橋村 正之

雨の降る日の父さんは
お仕事出来ず一日中
テレビとお酒で過ごします
お陽様早く顔出して
お天気あがれば父さんは
行って来るよと手を振って
元氣にお仕事出掛けます
そんな父さん大好きよ

疲れも見せず父さんが
返って来ます日暮れ時
家族揃って晩御飯
今日も幸せ囲む卓

お仕事頑張る父さんの
二本の太いその腕が
家族を支えているんだね
父さんほんとにありがとう

青春の輝き【後編】

法道寺 本田 花風

電話口に出た女性を直感的にお手伝いさんと思い電話の趣旨を伝え理恵さんの消息を聞くと、「理恵さんは居ません」繰り返して尋ねても「理恵さんは居ません」の繰り返して。そのピンと張った低い声音に「これまでか」との思いが横切った。

受話器を置きながら永い挑戦はこれで終焉と感慨にふけた。しかし、終わりはそれから四十年近くたったある日の新聞の記事であった。顔写真付きの「詩人、芥川賞作家吉行理恵」の死亡記事。ひとつ年上の彼女との真の終焉がこの時であった。後に電話口の女性が奥さんであったらうと思いは尽きぬ。当時はネットもないし情報不足、買い求めた冊の詩集(難解)にも見当たらず諦めを感じた記憶がよみがえる。この思い出を文化協会に在籍中、文化講演会で講演したいと提案のところが総反発された。十分に脚色し準備していたが日の目を見ることはなかった。(参考:兄は作家淳之介、姉は女優和子、母はあぐり)

投稿いただきました作品は、短歌・俳句それぞれ一句とします。必要な場合は、ルビを付けてください。
また、確認のためお電話することもありますので、連絡先の記入をお願いします。